

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2021年度 助成者)

作成日 2021年 8月 31日

| | |
|-----------|---|
| 氏名 (フリガナ) | 磯田杏実(イソダアミ) |
| 研修先機関名 | Hawaii Tokai International College |
| 研修期間 | 2021年8月17日 (火) ~ 8月21日 (土) オンライン (Zoom) |
| 大学名 | 東京大学 |
| 学年 | 5年 |

今回、日米医学医療交流財団から助成をいただき、医学部夏期集中医学英語研修プログラムに参加しました。コロナ禍で例年と異なりオンラインでの開催でしたが、時差もある中、関係者の方々の多大なご尽力のおかげで充実した研修期間を送ることができました。

医学部夏期集中医学英語研修プログラムでは英語での **history taking** と **case presentation** の方法を勉強できると伺い、魅力的に感じて参加を決めました。実際にプログラムを通じてこの2点を集中的にトレーニングすることができ、期待以上の学びを得ることのできた5日間でした。

英語で一から **history taking** をするのは私にとって初めての経験でした。参加生徒同士のロールプレイや、ハワイ大学の学生さんを模擬患者とした問診を通じて何度も繰り返し練習することができ、技術的に成長できたと思っています。**history taking** においては、英会話の能力を上達させることが必要なのは当然のことながら、聞きたい内容を適切な言葉・言い回しを用いて表現することが必要であり、練習によって型を身につけることができるということを学びました。今回の参加で、部分的ではありますが、その型を身につけることができたのは大きな成果だったと考えています。他の参加者の方の上手な言い回しからも勉強させていただきました。一方で、患者さんが症状を説明する際には医学的な表現をするとは限らないため、症状に関連する英単語も勉強しなくてはならないと感じました。

また、米国では **case presentation** の能力が非常に重要視されているという話を伺いました。これまでの病院実習ではテンプレーションに沿った発表の経験しかありませんでしたが、いい **case presentation** をするためには **history** から鑑別疾患をあげ、その上で必要な情報を順番も考えて述べることが重要で、そこには医師・学生の能力が大いに表れるそうです。実際に行った **history taking** の内容から **case presentation** を行い、毎回先生方からフィードバックをいただいて改善することで、まだまだ不十分ではあるものの実力を伸ばすことができたと考えています。

さらに、ハワイ大学の学生さんとの交流や、実際に米国で医師として働いていらっしゃる先生方のお話を通して米国での医療についての知見を深めることができました。大学3年生の時に UCSF の病院を見学させていただいたことがあり、米国の医学生に求められているレベルの高さに驚いて、それ以来漠然と米国留学に興味を持っていました。今回米国で働くために求められるレベルや具体的なステップ、努力の方向性を知ることができたことは非常に有意義な経験だったと思います。言語面・医学面ともに実力不足を感じることも多くありましたが、他の参加者の方も将来やりたいことが明確で、将来の海外留学に向けて行動されているなど、高い志を持っていらっしゃる方ばかりで刺激を受けました。コロナ禍でできる活動の幅が狭まっている現在ですが、今できることを見つけて将来に向けて行動していきたいと思っています。

最後になりますが、医学部夏期集中医学英語研修プログラムの開催にあたってご尽力いただいた Hawaii Tokai International College・日米医学医療交流財団の皆様、ご指導・ご講義いただいた先生方、JABSOM の学生さんに心より感謝申し上げます。